

ASAP カンボジア通信

Asia School Attendance Partnership NPO 法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会



家路につく多摩川コールタメイ小学校の子ども達。背中には手作りリュックが揺れています

2015.4

- 第 22 回視察訪問のご報告 長谷川 理事長…P1
- 多摩川コールタメイ小学校にソーラーが …P2
- トロピアンプレイ中学校に学級文庫誕生…P2
- Panasonic からソーラーランタン 108 台が…P3
- ASAP の自動販売機誕生 …P4
- 作業場建築スタート！…P5～6
- 日本への招待プログラムその後…P7～8
- ビッグマーケットオープン式典に参加して 細谷理事…P9
- タイヤとび遊具大活躍・早朝給食の様子…P10
- 明星大学の皆さん訪問・Mother 製品ご紹介…P11
- 第 23 回支援ツアーのご案内…P12

Vol. 15

第22回視察訪問のご報告

理事長 長谷川 安年

去る2月26日から3月4日に渡り、東京昭島ロータリークラブ4名、明星大学ボランティアクラブ「BUKAS」10名の方々を含む総勢19名での第22回支援ツアーを実地致しました。

今回の訪問は、Mother to Mother活動の将来を見据えて1年前に購入した土地の造成状況を視察することが大きな目的でした。ところが後に詳しく記しますが、思いもかけない支援を頂戴し、今年の1月に建物工事に着工することができ、この訪問では完成間近の作業場を確認することとなりました。

未就学及び中退者を減らすためには、貧困家庭への経済支援が大きな鍵となります。その手段として今後より活動の安定と充実を図る新たな一歩になることと確信しています。

一方東京昭島ロータリークラブの国際支援事業のソーラー設置では、ソーラー機材全てを日本から運んだ為「関税」「電圧」など多くの苦勞がございました。無事設置し電気が点灯した際にはほっと胸をなでおろした次第です。

私がカンボジア支援を始めてから早10年訪問回数は20回を超えます。建物寄贈だけではカンボジアの抱える教育問題は解決できないという思いがあったからこそここまで来ましたが、多くの方々と同じ思いで活動をささえてくださったからに他なりません。

お陰様で支援地区は確実に良い方向に進んできております。訪問の都度、若干の教育的アドバイスを伝えて参りましたが、徐々にその意図を理解し学校がきれいに整備されるようになりました。また、昨年実施した「日本招待事業」も、支援校とASAPの距離をぐっと縮め、より一層の信頼感を育むことができ、訪問時に会う学校の先生や子ども達はもとより、地域の村民のまなざしも大変暖かく、支援を継続してきたその成果を肌で感じます。

ASAPは小さいNPOですが、小さくても必要とされている支援を確実に実施できているという自負はございます。今後とも同様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



ソーラーを設置した多摩川コールタメイ小学校での記念写真。

多摩川コールドタメイ小学校についてソーラーが！

＜ 東京昭島ロータリークラブ寄贈 ＞

前号でもお伝えした、「東京昭島ロータリークラブから寄贈のポータブルソーラー」が無事設置されました。教室を照らす照明と数台のポータブルオルガンを動かす電気を賄う事が出来ます。夜間の授業の様子が先生から届きました。電気がともるといふ事は本当に嬉しい事です。



車のバッテリーでの電球ひとつのころ
手元を照らすと黒板が見えませんでした。



こんなに明るくなって黒板もはっきり

トロピアンプレイ中学校に学級文庫が誕生！

＜ (株)ラッシュジャパンの社員の皆様より寄贈 ＞

(株)ラッシュジャパンから、「チャリティーバンク助成金」で完成したトロピアンプレイ中学校に何かできないか、と相談を受けました。「カンボジアは、ポルポト政権時代、勉強はおろか、文字を読むことさえ禁止されたため、読書習慣が崩壊し、現在学校教育で図書整備は大きな課題となっています。しかし教室さえ不足している現状では図書室建設は容易ではありませんので、学級文庫を作ってあげたいのですが…」と提案すると、ラッシュジャパンの販売から製造までの社員の方々による募金活動が行われ、15万円もの募金が届きました。今回の訪問で本棚と沢山の本を買いそろえ、小さな学級文庫が誕生しました。



沢山の本を購入できたので、1か月ごとに並べる本を入れ替えるそうです

Panasonic からポータブルソーラーランタン 108 台が！

Panasonic では、新興国・途上国の社会生活の改善と向上に貢献するため、創業 100 周年を迎える 2018 年に向けて、「Panasonic ポータブルソーラーランタン 10 万台プロジェクト」を行っており、ASAP 支援校で絵画指導をして頂いている Small Art School の笠原知子先生のご紹介で、108 台のポータブルソーラーを寄贈して頂く事ができました。配布後 1 年間は、使用状況を報告するという条件のもと、昨年 12 月トロク、タットム、コールタメイ、トロピアンプレイ、キロタチュムの各支援校および先生達、Mother to Mother 活動のお母さん達に配布しました。

今回の訪問では全員にポータブルソーラーを持参して学校に集まってもらい、配布後 3 か月の調査を行ないました。転売されることなくすべて確認でき、まずはホッと胸をなでおろしました。

学校では、早朝給食の準備や図書室で活躍し、先生達は、自分のソーラーランタンを持つことで、家族に気兼ねなく仕事ができるようになったと喜び、配布以前は 8 割の家庭が油ランプでの明かりしかなかったマザーのお母さん達も、月々の燃料費（約 4 ドルほど。食費 2～3 日分）を節約できる上、使いやすく便利だと大喜びでした。

携帯電話の充電もでき
ます



暗いうちから始める朝の給食の準備で大活躍



夜も翌日の準備ができるようになりました

ASAP の寄付金付き自動販売機が登場

1本につき20円が通学用リュックの費用に！

皆さん、下の写真をご覧ください。何と、ASAPの自動販売機です。アサヒ飲料(株)が福祉事業として無料で製造し、設置者に渡る売り上げの一部がASAPに寄付される『寄付金付き自動販売機』です。とはいえ、設置して下さる方がいてこそ機能します。そこに名乗りを上げてくれたのが、群馬県桐生市にある『医療法人 山育会(さんいくかい)』です。運営されるショートデイセンター「和奏」と「たかのす診療所」に設置して下さいました。一本販売ごとに20円の寄付が届きます。

ASAPではこの自動販売機からの寄付金全てをカンボジアの子どもたちの「通学リュック」の費用に充てさせていただきます。支援先の子ども達は自分のカバンがなく、スーパーのビニール袋で通学する子ども達が少なくありません。そこでASAPでは数年前からMother to Mother活動の一環として、通学リュックを作ってもらいそれをASAPが買い取り、カンボジアの子ども達に配布しています。お母さん達に作ってもらう事で、お母さん達には就学費用が、子ども達にはリュックを配布することが出来ます。この支援を始めてから、支援先では、手作りリュックの子ども達が沢山見られるようになりました。しかし、買い取り費用をどうするかが大きな課題でしたので、この自動販売機の設置は大変有難いものです。山育会理事長山口典利様にお礼を申し上げます。



約250円で1枚のリュックになります



寄付つき自動販売機を設置してカンボジアの子どもたちに通学リュックを贈る活動を一緒に支えて頂ける方探しています！

Mother to Mother 活動報告

作業場建築スタート！

現在マザー活動の作業はタットム小学校の校長先生の自宅で行っています。数十枚のコップ袋から始まった活動ですが、今ではご支援頂く幼稚園や保育園も30園以上になり、毎年2000枚以上を縫っています。「いつか、埃や虫から布を守り、施錠できる安全な場所、そして現在日本で行っている裁断作業や、ミシンによる補強作業などをカンボジア国内で行えるスペースを備えたMother to Mother 活動作業専用の場所がほしい」という思いが強くなっていきました。しかし、ASAPの年間予算に匹敵する建築費用なんて夢のまた夢…と思いつつ少しの可能性をかけてマザー活動への助成を各方面に訴え続けていたところ、なんと！なんと！下記3団体から事業支援が決定し、この1月、とうとう工事に着工致しました。

（株）ラッシュジャパン

ラッシュジャパンさんは、2年前にMother to Mother 事業の安定の為に150万円の助成を頂きました。そして昨年は中学校校舎建築への助成に続く今回の助成（200万円）です。**Mother to Mother 活動をここまで育てることができたのもラッシュジャパンさんのおかげです。**昨年夏落成式に参列いただいた際にはASAPの現地での活動の様子を隅から隅まで見て頂き、その後の助成決定だけになおさら嬉しい助成でありました。心からお礼を申し上げます。助成に恥ずかしくない支援活動をしっかりとおこなって参ります！

独立行政法人国際協力機構（JICA）

『世界の人々のためのJICA基金』（国連は、2015年までに開発途上国における貧困削減や保健医療・教育の向上を図るための「ミレニアム目標」を定め、JICAはこの目標の達成に向け、一人ひとりの命の尊厳や生活を守り人々が着実に力を付け自立することを重視する「人間の安全保障」の理念のもと、支援を進めています）から100万円がMother to Mother 活動強化事業として交付して頂けることになりました。

公益財団法人「庭野平和財団」

庭野平和財団は宗教の相互理解と協力を促進するとともに、宗教的精神に基づいて平和社会実現のために積極的な取り組みを続けている人々の活動を支援し、助成を行っております。26年度は138団体の中から11団体が選ばれ、Mother to Mother活動の強化事業に40万円の助成金を頂きました。

各団体は、日本とカンボジアのお母さん達がお互いに困っていることを助け合うことで、途上国の就学問題に取り組んでいる「Mother to Mother 活動」の意義を認め、支援してくださいました。「そんなことできるはずがない」という声の中、手探りで始めた活動がこのように支援頂けるまでになったことは本当に嬉しい限りです。

Mother to Mother 活動は沢山のボランティアの方たちによって支えられてここまで来ました。皆さんの力がこんな大きな形になりました。本当に有難うございます。同時に活動への責任をととても感じます。日本での販売路など課題は多々ありますが活動が軌道に乗る様に、これからも精一杯がんばりますのでどうぞよろしく願致します



なかなか可愛い建物になりました。
完成はもうすぐです。

ご協力にお礼申し上げます

■Mother to Mother 活動においては沢山の布を必要としますが、値上がり等やりくりが大変です。大きなお値引で販売して下さいしている西八王子の手芸ショップ「タンノ」さん、日暮里の「安田商店」さん、朝日新聞掲載後、何度も布を送ってくださる皆様、有難うございます。

■factory-b.com 主催釣り大会で募金活動を行って下さいました。リュックの購入費用に充てさせていただきます

■バザーや作品展、父母会などで製品を販売して頂きました沢山の幼稚園、保育園、児童養護施設、小学校の皆様、本当に有難うございました



玉川学園小学部販売風景

日本への招待プロジェクトのその後

昨年9月に2人の先生（ヌウ先生とサレイ先生）と通訳のタラさんを日本へ招待いたしました。その後のご報告をさせていただきます。

10月末にヌウ先生とタラさんの帰国後、いよいよサレイ先生一人での日本語習得プロジェクトがスタートしました。カンボジアで日本語を勉強してきたとはいえ、ほとんど会話できない状態に「2ヶ月もの間一人でノイローゼとかになったらどうしよう…」という不安が皆の頭をよぎりましたが、もうやめるわけにはいきません。

まず最初の難関は、家族親族皆で生活するカンボジアでは一人で泊まった経験がなく「一人で怖くて泊まれない」という予想もしなかった問題でした。「どうしよう…」相談の結果、平日は私大沼とスタッフ上田が泊まり込み、週末は理事長宅に宿泊するという事ことになりました。日本語の先生は、日本語指導の資格をもつ花房様、上田、大沼です。朝8時から1時間勉強したのちに幼稚園で子ども達と過ごして、夕方1時間から2時間また勉強、というスケジュールを続けました。心配していた病気やケガもなく、常夏のカンボジアにはない「寒さ」と「紅葉」を体験し、「日本の食べ物全部おいしいです！」と6キロも太ってしまいました。絶対に入りませんと言っていたお風呂にも挑戦しました。電車に一人で乗ることもできるようになりました。

サレイ先生もよく勉強し、帰国時には必要最低限の意志疎通が取れるまでになっていました。この計画を無事終了できたのは、日本語の先生をお引き受け下さった方、お食事やスポーツ、宿泊に招待して下さるなど支えて下さった皆様のお蔭です。「学校に誰か日本語の解かる人を育てたい」という悲願がとうとう達成できました。本当に感謝しかございません。

日本語の解かる人が学校にいるという効果が早くも現れています。今まで通訳さんを介していた連絡を直接取れるようになりました。これは本当に助かります。また、サレイ先生ご自身がまだまだ日本語は未熟ではありますが、1月から日本語教室を始めました。月曜日から金曜日毎日3時間、生徒は100人ということです。

シムリアップにおいて外国語が多少できるという事はホテルやお店での仕事に繋がります。

**子ども達の自己紹介の様子を
ユーチューブに動画を載せまし
たので合わせてご覧ください。**

Yahoo で「ASAP カンボジア」と検索して下さい。何番目かに「TAMAGAWA ASAP」YouTubeとありますので、そこを開いてください



日本語授業の様子

ASAP が支援を始めてから 10 年。カンボジアの小さな村で
「こんにちは！」「ありがとう！」と日本語が響いています！
世界の平和は人と人との相互理解から始まります。
お互いのことを理解しながら支援活動を進めていきたいです
この日本語プロジェクトに助成して下さった
「かめのり財団」に改めてお礼を申し上げます。
ありがとうございました。

先生たちからのサプライズ！

今回の支援活動の最終日、トロク小学校の先生達から驚きのプレゼントがありました。先生方皆で作ったとても立派な額に入ったアンコールワットの刺繍でした。さらになんと飛行場まで全員がお見送りに来てくれました。理事長が支援を初めて 10 年近くになりますが、こんなことは初めてです。信頼と絆を感じた大変嬉しい出来事でした。



ASAP は今までに 9 棟の校舎を寄贈しています。落成式にはシアン・ブレマン大臣が列席しカンボジアへの教育支援に感謝の意を示して下さいます。今回の訪問中、時丁度カンボジア北西部に大臣が建築した新しいビッグスーパーマーケットのオープンセレモニーが行われ、その式典に ASAP が招待され、理事長及び細谷理事が出席いたしました。その様子をお伝えいたします。

ビッグマーケットオープン式典に参加して 理事 細谷 進

- 1、(距離・時間) シェムリアップから西へ 102 km 約 1 時間半
- 2、(場所) アバンティ バンテイ ミンチャイに大マーケットは造られていた
- 3、(建築主) ボッパーさんの伯父さんにあたるシアン・ブレマン大臣である
- 4、(名称) プサー (マーケット) トム (大きい) ミンチャイ
- 5、(規模等) 土地は 17,000 m² (約 5,000 坪) 建物は 5,000 m² (約 1,500 坪)
建築費用は約 20 億円とか
(大臣が出資者を募ったが一部の人しかいなかったのが殆ど大臣が中心で建築した。)
- 6、(店舗希望者へ) 数 100 戸の店舗の貸し出し契約について、大臣は 14 ヶ月は無料として出店者の事を考えての経営であるとのことである。
- 7、(招待者) 当日は州知事はじめ 600~800 名位の来賓や招待客がおりました。
- 8、(昼食会) 当日招待された方達に食事とカンボジア歌手達の歌とタオルケットにお金を入れた物をプレゼントしていた。
- 9、(その他) 3 月の乾季の時季ですが、昼間は大変暑く、おまけに式典の祝辞等大変長いため体力消耗等々…。座っているだけで、行くだけで、本当に疲れました…本音です。
でも、カンボジアの人たちは辛抱強い・・・じっとその演説を聞いているのである



広くてエレベーターもある内部
カンボジアではかなり最先端の造りです



シェムリアップから 100 キロの地方都市です

大活躍タイヤ飛び遊具

2年前の夏に学生の皆さんとタイヤ飛び遊具を設置したことを覚えていらっしゃいますか？灼熱の太陽の下汗だくになりながら埋め込んだ遊具はどうなったでしょうか。ペンキは少々はげましたが、子ども達を相手に大活躍しています。その様子をユーチューブに載せましたのでぜひご覧ください

Yahoo で「**ASAP カンボジア**」と検索して下さい。
何番目かに「**TAMAGAWA ASAP**」YouTube
とありますので、そこを開いてください



早朝給食の様子

支援校では 国際連合世界食糧計画（WFP）による早朝給食が行われています。その様子をサレイ先生が写真で送ってくれました。

日本の子ども達に比べて二回り位小さいカンボジアの子ども達。学校に来ればご飯をお腹いっぱい食べることができます。

日本にも抱える問題は多々ありますが、豊かな生活に感謝して自分たちができることをしていかななくてはならないと改めて思います。



自分のお皿とスプーンをかばんに入れて学校に来ます

明星大学の学生の皆さんが訪問しました

明星大学のボランティアグループ BUKAS の皆さんが 3 月 1 日～4 日参加し、子ども達と音楽活動や、サレイ先生の日本語授業のサポートをして下さいました。

音楽活動は昨年に引き続き「木琴」。ドレミの音楽を弾けるまでになりました！



Mother 製品の一部をご紹介します



スモッグ



手提げ



ショルダーバック



お弁当袋



エプロン



つけポケット

コップ袋やランチョンマットからスタートしましたが、今では 20 種類近くの物を作っています。プレゼントなどにぜひご利用ください

第23回

カンボジア支援ツアーのご案内

NPO 法人「アジアの子どもたちの就学を支援する会」(ASAP)では、第18回支援ツアーを下記内容で行います。支援ツアーでは世界遺産の遺跡巡りをはじめ、ASAPで支援している小学校の子ども達との交流や村民の家を訪問等、一般のツアーではめったに入っていく事のない村の生活をじかに見聞して頂ける大変充実した内容となっています。今回は、長い間の念願であった Mother to Mother の作業場落成式を予定しています。



- ◆日程 平成27年8月3日(月)～8月8日(土)
- ◆予定ご旅行代金 約160,000円 (飛行機代金で変わります)
- ◆募集定員 5名
- ◆締め切り 4月30日 (飛行機の席が無くなり次第締め切ります)

- ◆お1人様当り、カンボジア支援金10,000円を含みます
- ◆上記代金には飛行機代金、燃料チャージ、遺跡観光、ホテル、全食事、飲み物代金が含まれます
- ◆参加ご希望の方は、4月下旬までにご連絡をお願いします
- ◆お1人部屋ご希望の場合料金が異なります。



お問い合わせ * ASAP 事務局 (多摩川幼稚園内) 042-558-0218 * 大沼 陽子 090-4968-4198

編集後記（便利になっても…）

カンボジアの村に行くと電気も水道は勿論の事、日本にある物の殆どがありません。洗濯は手洗い買い物もその日のものをその日に買うのが基本、学校の先生達は「パソコンが欲しいです。書類制作が楽になります」といいます。電気があったら水道があったらどんなに楽になるだろう…きっと誰もがそう思っているはずです。

しかし私はいつも思います。カンボジアにない便利な物が沢山ある日本ですが、その分生活にゆとりが生まれているのでしょうか？答えはNOです。生活を便利に楽にするために色々な物が生活の中に入ってきているというのに、ゆとりが生まれるばかりか、日本の生活は本当に忙しいです。時間やすることに追われて人と人との繋がりも希薄になりつつあります。

経済発展とはなんなのでしょう。いつも考えさせられます。

大沼 陽子

支援金寄付について

ご寄付頂く会費又は支援金は下記口座に振り込みをお願いします。

- * 正会員… 年 20,000 円
- * 賛助会員… 毎月 1,000 円（年額 12,000 円）
- * その他支援金… 金額を問わず随時受け付けております

■郵便振替口座 00130-2-594647

『NPOアジアの子供たちの就学を支援する会』

■西武信用金庫 秋川支店 033

普通口座 1292601

口座名 『NPO 法人アジアの子どもたちの就学を支援する会
理事長 長谷川 安年（ハセガワ ヤストシ）』

ASAP カンボジア通信

ASAP 会報 Vol.15 2015.4

■発行 ※NPO 法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会
(省略 “ASAP” Asia School Attendance Partnership)

〒197-0825 東京都あきる野市雨間 430 番地

TEL 042-558-0218 (多摩川幼稚園内)

FAX 042-550-2467

メールアドレス asap@tamagawa-kids.jp

ホームページ <http://www.tamagawa-kids.jp/asap/>

■発行人 長谷川 安年